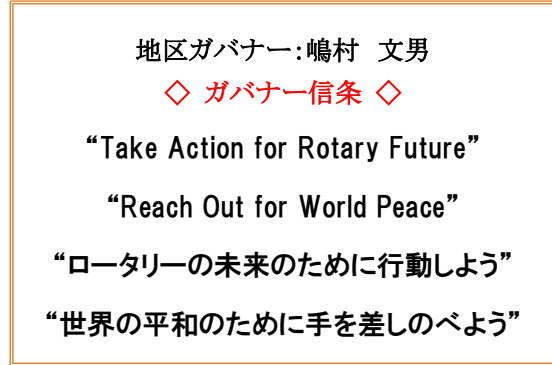


2022-23年度 ◆クラブ会長テーマ◆ 「八重山の未来のために行動しよう」



今月のロータリーレート 1\$¥140

島の水景 ～石垣島の水散策～

【白水地区】

この土地は谷が集まる集水地形にあたり、豊富な水に恵まれてきました。取水地であるこの地区は、養殖池構想や白水ダム建設計画とその中止、原水調整池計画など、時々のはり余曲折を経てきた場所でもあります。戦時中は住民の避難先となり、戦争遺跡群も残されています。現在の白水地区はのどかな里山で水田風景が広がります。



6月のプログラム

6/28(水)納めの会

ガバナー補佐: 仁開 一夫 会長: 大浜 勇人 副会長: 前原 博一
幹事: 松田 新一郎 副幹事: 今西 敦之
公共イメージ委員長: 山下 暢 SAA・出席委員長: 大本 綾子

例会日 水曜日 12:30~13:30
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311
TEL/FAX(0980)83-2917
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp

- ☆総会員数：53名（名誉会員2名・出席免除会員2名）
- ☆出席義務会員数：50名
- ☆出席人数：30名 欠席人数：20名 出席率：60.00%
- 《司会進行：大本綾子・玉城一吉》
- ☆ロータリーソング：奉仕の理想 ロータリーの行動規範
- ☆ソングリーダー：石川尚吾
- ☆メイクアップ：宮良榮子 森田安高

会長挨拶
大浜 勇人



私の年度は残すところ2回となりました。先週は合同例会ということで、仁開ガバナー補佐主催で例会をさせて頂いて、我がクラブから30名、Total6クラブで120名集まっていた頂き、大変盛大な催しだったのかなと思います。講演して頂いた、鈴木一作様、ジャンチブ ガルバドドラッハ様、大変面白い話で為になったのではないかなと思います。鈴木一作様は、以前に石垣 RC でも卓話をさせていただいたと思いますが、クラブ奉仕について卓話を頂きました。次年度の前原会長も大変為になったのではないかなと思います。今年度始まる前に、PETS の中で、鈴木さんも話してくれたことに、なんだかんだ言って僕も利用していたなど、例えば解説の時に、えーとかあーとかを言わない、要するに次に話すことをその場で組み立ててしまうと、えーとかあーとかを言うので、そういうのは言わない、話すスピードの1分間で300字にしないと、要するに自分で間を取りながら話をしないと、聞き手側は聞きにくいよと、そういう細かなアドバイスを受けたのを覚えています。もう1点、できれば例会は全部やりなさいと、特別休会とかはやらないということで、実際にそれ自体は私は出来たのかなと、全てやりますよという宣言のもとで今年度はスタートさせております。モンゴルのガバナー補佐のジャンチブガルバドドラッハさんは、米山のことが凄く強く関係しているものですから、先輩事態も、もともと米山奨学生で苦学の末に日本に留学をし、家族と共に毎朝5時に起きてアルバイトをはじめて、新聞配達など、1日3つ掛け持ちでバイトしながら苦学生をして、子ども3名いて奥さんもいますから大変だったと、その中で米山奨学金を受け取ることができ、本当に助かったと。今ではモンゴルの方に行って、新モンゴル学園という学校を立ち上げて、日本語教育を子供たちにしながら、凄いですよ、講義事態を日本語でやるんですね。だから向こうの学生さんは、日本語も日本人より上手なんですね。うちらが英語で講義できるかと思ったら出来ませんよね。優秀な子供たちが集まって、日本にも米山のネットワーク通じて、経済的

には差がありますので、奨学金を上手く利用して、今までで500名あまりが東大をはじめ京大、九大、いろんな所の大学に子供たちを送り出して、また世界中の大学にも優秀な学生さんを送っています。もしかしたら卒業した1期生が、IPS細胞の研究のなかで、賞を取ったりとかの話もあったり、モンゴル初のノーベル賞になればいいなと話聞きながら思っていました。次の日は、青少年フォーラムで、そのなかでも鈴木一作様とジャンチブさんの卓話をさせていただき、有意義な時間を過ごすことができました。ご参加頂いた皆様におかれましては、合同例会を盛り上げて頂き誠にありがとうございました。残り1回となりましたが、全力で勤めあげたいと思います。

☆ 幹事報告・松田幹 新一郎 ☆

本日の報告は特にございませんが、週報の裏に合同例会の写真付きで掲載されています。多数の皆様が参加いただきましてありがとうございました。私も懇親会の司会をさせて頂きまして、皆さまの顔を見ながらやっているとリラックスできました。ありがとうございました。来週はいよいよ今年度の納め会がございます。19時より、アートホテル石垣島で開催いたしますので、多数の皆様のご参加をよろしくお願い致します。

☆ 会員・委員会からの報告 ☆

仁開一夫ガバナー補佐:こんにちは。先日の合同例会、ありがとうございました。SAAのタスキを付けて10名以上が入りに並び、ロビーの方でも何名かいて、ウエルカムをした事に対して、他のクラブから「流石、石垣ロータリークラブだ」とクラブが褒められましたので、皆さんに報告致します。



☆会員卓話:西村 剛志 氏 ☆
(石垣島製糖株式会社 代表取締役社長)

テーマ:国産糖のお話

本日は、拙い話ですけれども、何卒宜しくお願い申し上げます。まずは私の自己紹介からさせて頂きます。1967年11月に大阪府門真市で生まれまして、2011年に千葉県に転勤となるまで大阪で仕事をしながら暮らしておりました。ちなみに転勤となった2011年は、東日本大震災のあった年です。家族構成は、妻1人、子供3人で3人とも仕事を見つけて独立しております。趣味は釣りとうちがゴルフです。石垣島に来て釣りに行く機会は増えましたが、逆にゴルフをする機会はゴルフ場の関係でかなり減ってしまいました。大阪の人が皆さんたこ焼きと阪神が好きな訳ではないと思いますが、私はどちらも大好きでして、これに冷たいビールがあればとても幸せな気分になれます。

これまでの勤務地ですが、大日本明治製糖は石垣島製糖の親会社として、そちらの大阪府堺市にある堺事業で、主に砂糖の2次製品(スティックシュガー・小袋のパッキング)や調理料関連の製造に携わっていました。なおここは、精製糖工場ではありませんでしたので、直接製糖には携わってはいませんでした。その後2011年に千葉県へと転勤となり、千葉市原市にある大日本明治製糖千葉工場での工場長としての勤務となりました。この千葉工場では、コーヒーなどに入れる角砂糖の製造を行っていましたが、しかし需要の減少などもあり現在は閉鎖となっています。千葉県は、釣りをするにはとても良い環境でしたし、ゴルフ場もとてもたくさんあったので休日は楽しく過ごす事が出来ました。ゴルフ場の数は北海道に次いで千葉県が2番目に多いそうです。その後、北九州市にある子会社へ出向となり、福岡県北九州市の門司にある鳳氷糖(こちらは氷砂糖を製造する会社になりますが)そちらで社長をしておりました。この鳳氷糖は、本州と九州を結ぶ関門橋や関門トンネルを渡ったところにある、門司港レトロという観光地の近くにあり、そして本社に呼び戻され、東京の本社、食品統括部での勤務となりました。食品品統括部は、調味料関連や仕入れ商品など砂糖以外の製品商品を扱う部署で、営業部隊と生産部隊を全体的に管理する部署になります。ここまでは、砂糖会社で働いていましたが、砂糖そのものは作っていません。そして、2021年9月に石垣島製糖に出向となりまして、現在に至ります。

ここへ来て初めて砂糖を作る仕事に携わらせて頂きました。続いて会社の紹介を簡単にさせていただきます。1961年(昭和36年)設立で今期で62期目となります。1961年当時は石垣島には、石垣島製糖株式会社と八重山製糖株式会社(現在の大浜地区)の2工場が存在するということになりました。この時の大浜工場の煙突は現在も残っていますので皆さんお目にされていることと思います。

1961年9月に、資本金5万ドル(1,525万円)で発足。小型24工場(主に黒糖工場)を買収し黒糖を生産販売することからスタートし、1962年には、分蜜糖工場とするため、45万ドル(13,725万円)の増資を行い、1日当たりの原料処理能力500トンの工場を稼働させました。1967年6月に、琉球政府の糖業合理化政策により八重山製糖を吸収合併。その後は逐次設備を増強し能力をあげていき、直近の大型更新工事では、2003年10月ボイラ発電タービン設備・圧搾機増設・自動分離機を設備更新し、公称能力は1日当たり原料処理能力1000tとなりました。設立時の工場建設風景になりますが、こちらは現在の事務所になりま

すが、一部増改築はしておりますが、当時のまま今も使っております。次は、工場側の建設風景ですが、この工場は着工から約8カ月で完成させたいと伝え聞いております。一部増改築はしていますが、60数年前の工場まもなくも使用しています。

それではここからは製造工程を簡単にご説明します。ご存じだとは思いますが、石垣島製糖では何を作っているかと言えば、原料はサトウキビですが、黒糖ですか？白いお砂糖ですか？答えは、黒糖ではなく、いわゆる分蜜糖(固形分と蜜分を分離したもの)を製造して、これが上白糖やグラニュー等の原料となる、「粗糖」と言われるものです。その「粗糖」で「石垣島のおいしいお砂糖」といった製品が出来ています。沖縄県内には分蜜工場が全部で8社9工場稼働しています。宮古島は島内に2工場が稼働している状況です。なお、黒糖を製造する含蜜糖工場は沖縄県内に8工場ございます。※鹿児島県には分蜜糖工場は6社・7工場あります。搬入されたさとうきびはヤードで一時保管され、ケーンシュレッダーと呼ばれる装置で細かく粉砕されます。そして圧搾機で搾るわけですが、石糖ではこの圧搾機が5つ連続しており、5重圧搾機と呼んでいます。圧搾後出てきた、搾りかす(バガスと呼びますが)はボイラの燃焼原料として使用し、搾った汁を濃縮していき、蜜分と分離し製品とします。工場の能力としましては、1日の圧搾能力は1,000ト、さとうきび1トンに対し砂糖の生産量は、歩留まりが12%として約120Kgとなります。次は各工程別の画像になります。原料ヤードでは、クレーンを使用しさとうきびをコンベアへと移動させます。巨大なUFOキャッチャーをイメージして頂ければ宜しいかと思えます。

加熱し、沈殿ろ過した糖液を効用缶と呼ばれる設備で濃縮していくわけですが、効用缶では段階的に空気を引き抜くことで内圧を下げていきます。こうすることにより沸点が下がりますので、最後の4号効用缶では、約55度で沸騰させて水分を蒸発させ濃縮させていきます。低い温度で沸騰・蒸発させることで糖液の品質の低下を防ぐ事が出来ます。次は結晶・分離の工程です。この結晶缶で砂糖の結晶を取り出すわけですが、この装置も設立当初のものがつかわれており、周りは保温用の木材で覆われています。そして遠心分離機で蜜分と固形分に分けるのですが、洗濯機の脱水をイメージして頂ければわかりやすいかと思えます。

こうして出来上がったものを「粗糖」と呼び、コンベアで製品倉庫へ運びます。製品倉庫内で一時保管をし、そしてダンプで港へ運び、船により内地の精製糖工場、主に千葉県・福岡県・大阪へ運ばれて行きます。最後は、精製糖工

場で製糖され、様々な製品や商品となります。

糖価調整制度。ここからは、少しややこしい話ですので、きわめて簡単に説明させていただきます。砂糖の内外価格差の現状ですが、国内産糖は、海外産と比較すると、てん菜糖で約2倍、甘しや糖で約5倍もの内外価格差があります。これは海外の主要生産地では、大規模生産による費用対応化の高さや、低賃金の労働力のほかさとうきび栽培に適した気候が要因となっています。この内外価格差を調整する仕組みが、「糖価調整制度」と言われるものです。この仕組みは、国の政策として、海外から安い原料糖が輸入される際に、輸入者(精製糖企業など)から調整金を徴収し、それを国内の農家と産地製糖工場の支援に充てます。その結果、輸入原料糖価格と国内産の原料糖価格とのバランスがとられ、農家の方々や砂糖製造工場の方々が安心して砂糖を生産でき、我が国の食料自給率も高めることが可能となります。・海外から輸入される原料糖と国内のさとうきび・てん菜を原料とする国内産の原料糖に大幅な内外価

格差が生じる中で、高い水準の国境措置を通じて、最終製品である精製糖の流入を阻止するとともに、原料糖については、これを輸入する精製糖企業から調整金を徴収し、この収入を財源として国内産糖の生産者・工場に交付金を交付し、価格調整を行っているという理解で良いかと思えます。次は輸入糖と国産糖のバランスを現した図になります。少し前のデータですが、令和元年の国内の砂糖消費量は、172万トンありました。これに対し輸入の精製糖は、「関税や調整金」といった高い水準の国境措置により輸入されるとこ自体を阻止し、一方原料糖については、沖縄・鹿児島島のさとうきびを原料とする「原料糖」が約13万トン、北海道産の甜菜を原料とする「原料糖」が22万トン、同じく甜菜由来の最終製品であるビート白糖が38万トン、残り約100万トンが、輸入された原料糖となっています、主な輸入先はオーストラリアやタイなどです。ご参考までに、さとうきびの算出額による経済波及効果は約4倍に相当すると言われています。ご清聴どうもありがとうございました。

～ 例会の風景 ～



本日のニコニコ: ☆大浜勇人氏: 合同例会参加ありがとうございました。西村さん、卓話ありがとうございました。

☆仁開一夫氏: 合同例会参加ありがとうございました。

☆前原博一氏: 西村さん、卓話ありがとうございました。

☆大田次男氏: 本日は海神祭おめでとうございませう。数十年ぶりに漕いできました。

☆今西敦之氏: 仁開ガバナー補佐はじめ会員の皆様、合同例会お疲れ様でした。西村会員、本日の卓話よろしくお願ひ致します。

☆松田新一郎氏: 西村さん、本日はありがとうございました。また、皆様、合同例会ご参加ありがとうございました。かか司会すみません(笑)

☆新川正人氏: 西村さん、卓話ありがとうございました。

☆新里裕樹: 仁開さんをはじめ、合同例会に参加されたメンバーの皆様、お疲れ様でした。

◆BOX ¥8,000 (累計 ¥380,000) ◆コイン ¥909 (累計 ¥24,721) 合計 ¥404,721

6月

黒島栄作氏 3日(土) 新城永一郎氏 10日(土) 前原博一氏 22日(木) 中山義隆氏 26日(月)

